

FRIENDS
WITHOUT A BORDER
www.fwab.jp

Voice of friends NEWSLETTER

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー ニュースレター
ボイス オブ フレンズ vol.34

contents

- ラオ・フレンズ小児病院プロジェクト
発足調印式
- ラオ・フレンズ小児病院建築鋳入れ式
- 赤尾和美看護師「今月の出来事」から
- 活動報告
- 活動国クイズにチャレンジ
- 事務局より



ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)の プロジェクト発足調印式

11月26日、ラオスのルアンパバーン県立病院において、ラオ・フレンズ小児病院のプロジェクトに関する MoU (覚書) がルアンパバーン県保健局とフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーとの間で交わされ、調印式が執り行われました。

ラオス保健省副大臣、ラオス外務省職員、ルアンパバーン県副知事、ルアンパバーン県保健局長やフレンズの理事

などが立ち会いのもと、無事に調印がなされ、これで正式にプロジェクト開始です。これまで時間をかけて準備してきた様々なことが、より具体的に動き出すことになります。

2015 年の開院に向けて、病棟建設やスタッフ雇用、スタッフ教育など、やるべきことが次から次へ。

スタッフ雇用はすでに始まっていますので、次号のニュースレターでは、新スタッフの紹介ができればと考えています。



多くの関係者が見守る中で行われた調印式の模様



建設地で鍬入れ式挙行

MoU調印式の後、県立病院の敷地内に位置するラオ・フレンズ小児病院の建設地で、工事の安全と建物の無事を祈願する鍬入れ式が執り行われました。

15 年前に行われたアンコール小児病院鍬入れ式、5 年前のサテライトクリニック (ソトニコム) 鍬入れ式を思い出してくださる古くからの支援者様もいらっしゃることでしょう。両者とも現在は、カンボジアの人々から信頼され、親しまれる病院に成長しました。ラオ・フレンズ小児病院は、アンコール小児病院とソトニコムのサテライトクリニックをモデルとし、基本理念である「医療・教育・地域支援の充実」を踏襲していきます。

ラオスの人々から信頼され、親しまれる病院を目指すことはもちろん、ラオス国内の医療現場を底上げできるように、取り組む予定です。



建設地に鍬入れをするフレンズ創設者・井津、フレンズJAPANの赤尾、松島



ついに建築が始まります

鉄入れ式も無事に執り行われ、2015 年の開院に向けて、ラオ・フレンズ小児病院の建設工事が始まります。

このプロジェクトが発足した当初は、既存の県立病院の一部を改築し、新しい小児病棟に作り替える計画でした。ところが病院側や保健局との話し合いが進められる過程で、既存の施設ではフレンズが目指す活動が難しいということになり、病院に隣接した小児科病棟を新築することに計画を変更。アンコール小児病院を手がけた日本人建築家・古山康行氏の設計で、小児科病棟が建築されることとなりました。

ラオスの方々が楽しみにしてくれているラオ・フレ

ンズ小児病院完成に向け、病院スタッフの英語教育が1月からスタートするなど、ソフト面でのサポートも、これから始まっていく予定です。

▶ラオ・フレンズ小児病院の建設予定地



◀ラオ・フレンズ小児病院の設計外観図



ミャンマー活動報告

2013年7月から始まった、ミャンマーでの支援活動。フレンズ JAPAN は、現地の NGO ゴールドミャンマーが行うモバイルクリニック（移動クリニック）を支援しています。

毎月行われるモバイルクリニックでは、ミャンマー人の医師と看護師、フレンズ JAPAN からのアドバイザーなど 10 名前後のスタッフで村に出向き、小児の健康診断、診療、薬の処方、母子に対する栄養教育とクッキングデモンストレーションを実施。医療へのアクセスが難しい地域の人々の一助となっています。

モバイルクリニックでの様子は、4～5 ページ「赤尾和美看護師の今月の出来事」でも紹介されていますので、そちらもご覧ください。どの村に行っても、子どもとそのお母さんたちが心待ちにしてくれており、活動の大切さを実感させられます。

▶楽しかったモバイルクリニック。みんな、にっこり



◀訪れた子どもたちの1人1人を健康チェック



アンコール小児病院理事会報告

9 月 6 日、カンボジア・アンコール小児病院の理事会が行われ、理事を務めるフレンズ JAPAN の代表・松島も出席しました。

医療、サテライトクリニック、会計、開発など、各委員会からの報告で、朝 8 時から夕方 6 時までを費やす充実ぶりだったとのこと。自立後も活動は順調で、独自にチャリティーオークションを開催するなど、活動費の調達にも積極的に取り組んでいるようです。

また、第2手術室とハートセンターを新たに建設する予定があったり、サテライトクリニックではオックスフォード大学とパートナーシップを結んだり、よりいっそうの発展が期待されます。

皆さまからのあたたかい支援のおかげで、アンコール小児病院はここまで大きくなりました。運営を行う院内組織は、【AHC インターナショナル】としてカンボジア政府から認証も受けました。フレンズ JAPAN は、今後もアンコール小児病院を見守り続けます。



満床になることが多い病室。裏庭に干されたシーティング類もいっぱいです



Iちゃんとお母さん。自宅前にて

Iちゃん(8歳)を訪問しました。Iちゃんは、お母さんと2人暮らしです。お父さんは6年前に亡くなってしまいました。それ以来ずっと2人暮らし。お母さんが日雇いで伐採を手伝ったりしながら生計を立てているとのことですが、仕事は不定期で収入は安定していません。病院へ通うにも交通費が大きな負担です。病院からのサポートが多少あるものの、これも常にあるわけではなく、借金をして町へ出ていくことが多いそうです。

Iちゃんの家近くには他国の資本で作られたセメント工場が見えましたが、労働者はほとんどが工場主の母国から派遣され、ラオス国内からの雇用はほとんどないそうです。地元を潤すことにはなっていないということですね。電気が通っているのですが、使用するのは小さな電灯ひとつです。電気が通っていても、



舗装された路から小高い丘の上へ

県立病院へ通院するIちゃん(8歳)を訪問しました。Iちゃんは、お母さんと2人暮らしです。お父さんは6年前に亡くなってしまいました。それ以来ずっと2人暮らし。お母さんが日雇いで伐採を手伝ったりしながら生計を立てているとのことですが、仕事は不定期で収入は安定していません。病院へ通うにも交通費が大きな負担です。病院からのサポートが多少あるものの、これも常にあるわけではなく、借金をして町へ出ていくことが多いそうです。

県立病院へ通院するIちゃん(8歳)を訪問しました。Iちゃんは、お母さんと2人暮らしです。お父さんは6年前に亡くなってしまいました。それ以来ずっと2人暮らし。お母さんが日雇いで伐採を手伝ったりしながら生計を立てているとのことですが、仕事は不定期で収入は安定していません。病院へ通うにも交通費が大きな負担です。病院からのサポートが多少あるものの、これも常にあるわけではなく、借金をして町へ出ていくことが多いそうです。

十分に使えるのかどうかは別問題ですね。お水は、20～30m離れた水場から運できますが、これも重労働です。

Iちゃんのお母さんは、この日も仕事を求めてルアンパバーンへ3週間行くということだったので、私たちと一緒に車で行くことにしました。交通費が節約できますものね。そして、「街ではどこに住むの?食べ物とかは?」とあれこれ質問!で、わかったのが、お母さんの彼がルアンパバーンにいるのだそうです!近々結婚も考えているとニコリ。厳しい生活だよな...と思っていたけど、お母さんに悲壮感が全くなかったのは、そういうことだったのですね。Iちゃんもお母さんの彼のことが大好きだそうです。良かったな。LOVE is strongですね!(この記事はIちゃんご家族の了承を得て掲載しております)

〈ラオス7～8月の出来事より〉



電気は小さいものが一つ

水場はきれいに整頓されていました



赤尾和美看護師の「今月の出来事」から

カンボジアの話題です。久々にアンコール小児病院のスタッフのお手伝いでした。看護部長のソパル看護師、放射線科のセンハップ医師、救急科のコサル医師が長年ご支援いただいている社会医療法人財団池友会福岡和白病院へ研修に来ていました。慣れない環境、言語の中での研修は、受け入れてくださる医療機関もとても大変です。少しでも研修がスムーズに進むように、ちょっとだけお手伝いしました。研修では、最新の器材、診療について説明いただき、また院内各部署の連携やシステム形成を学び、国

や病院の規模が違っても参考になることをたくさん吸収しました。また、自分たちが学ぶばかりではなく、日本ではあまり見られないような症例の発表をして還元することも試みました。時には息抜きに観光もさせていただき、かなり充実した2週間だったようです。

社会医療法人財団池友会各病院の皆さま、3名の訪問を快く受け入れてくださり、ありがとうございました!〈カンボジア9～10月の出来事より〉



宿泊していたアパートの二室に集合し、発表の手直し中



最新機器が設置されているリハビリ室の見学中



忍術村へ観光!すっかり忍者?

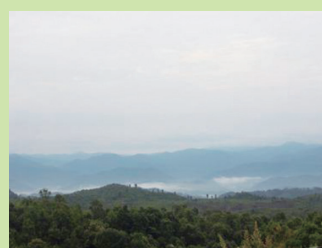


今回のラオス巡回で、ある18歳の女性に出会いました。14歳の時に結婚し、子どもができず、そしてこれから先も子どもはできないと信じている(.....と彼女は言いました)ので、遠くの村から5か月になる男の子をもらってきたのだそうです。哺乳瓶を持ちミルクを与えていますが、やはり気になるのは「何をあげているんだろう?」ということ。粉ミルクはここでも高価なはず。人里離れたこの村で簡単に購入できるとは思えませんものね。

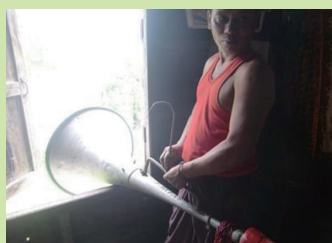
で、確認すると、やはりコンデンスミルクを水で薄めたものでした。カンボジアでもよく見かけます。粉ミルクよりはかなり安価に購入できるので、「色も同じだし、ミルクだし」というのが理由のようです。ただ、コンデンスミルクでは成長に欠かせないたんぱく質が絶対的に不足しているのです。ですから“クワシオコル”という蛋白欠乏の栄養失調になるのは目に見えています。そして、お母さんの左手にはラオスでは主食である蒸したもち米が握られ、ミルク

に飽きた赤ちゃんに食べさせようとしていました。

が、まだ歯も生えていないので、あの弾力のあるもち米を咀嚼することはもちろんできませんし、実際吐き出していました。お母さんはその吐き出されたものをまた口へ押し込む.....。「うーん、ダメなんだけどなあ」と、ちょっとだけ栄養のお話をしてみました。コンデンスミルクではタンパク質が足りないことや、離乳の時期や離乳食について話しても話しても、お母さんの食いつきがない。聞いてはいるけど、興味なしという反応でした。行動変容はどここの国でも簡単ではないけれど、文化や民族が違う彼らにアプローチすることがこれからの大きなチャレンジとなりそうです。(ラオス5月の出来事より)



まるで仙人でも出てくるような朝もやの風景が見られるところに位置するヘルスセンターに勤務するやる気満々の若いスタッフ!



たどり着くまで、それはもう大変でしたが、こんなにたくさんの村人さんたちが待っていてくれたり、来られない人たちのために、大きな大きなスピーカーで、健康教育が村中に伝わるようにと準備してくれていたもので、疲れも吹っ飛んでしまいました。医療ス



タッフ全員がドロドロで汗だくでしたが、急いで診療に取りかかりました。村人さんたちからの意欲が私たちの活動の力になってくれているなど実感です。双方が一体化して何かを成し遂げると達成感もひとしおです!

村人さんたちのご協力は、クッキングデモンストレーションでも大活躍でした。栄養指導の後に、お肉やお豆の入ったお粥やミルク粥を大きなお鍋で作り、集まった人たちに試食をしてもらったのです。グツグツと煮えている音といい香りで、お味も最高! 魔女が鍋をかき回しているように、ぐるーり、ぐるーりと汗をかきながら作ってくれました。試食も大好評で、「おかわり!!」と次々と空になったお皿が給仕している人の前に差し出されました。こうして、少しでも栄養に意識を向けてもらうことが行動変容の最初の一步になるのです。状況を一気に改善することはとても無理ですが、こうした地道なアプローチが、決して無駄にはなっていないと確信しています。もちろん、中には「これでは埒が明かない」と思われる方がたくさんいるのも理解いたします。でも、知るチャンスの無かったことを知る、感じる事ができたらそれでひとつ前進なのだと思うのです。

〈ミャンマー 8 月の出来事より〉



カンボジアフェスタ

7月6日～7日 於：東京・国際機関
日本アセアンセンター

第2回カンボジアフェスタ『60年目の出逢い、そしてこれから』が開催されました。のべ300人が会場を訪れ、フレンズJAPANブースにも、多くの方が立ち寄ってくれました。

AHCサテライトクリニック報告会

8月28日 於：東京・フレンズJAPAN事務局

アンコール小児病院サテライトクリニックのヘレン看護師が来局し、報告会を行いました。この報告会は、昨年に続き2度目。スタッフの成長ぶりや、クリニックでの成果がうかがえる内容でした。

K・MoPAチャリティ・ライブ2013

9月15日 於：山梨・清里フォトアートミュージアム

清里フォトアートミュージアム（K・MoPA）が、毎年恒例となっているチャリティイベントを開催してくださいました。今回のテーマは『みんなつながっている～星と音楽と私たち』。宙先案内人の高橋真理子さんのトークと、ピアニストの小林真人さん、マリンバ&打楽器奏者の山本晶子さんお二人による演奏がコラボした素敵なイベントでした。



写真提供：清里フォトアートミュージアム

このイベントの収益の一部を、これまでではアンコール小児病院にいただいていたが、今回からラオ・フレンズ小児病院にいただけることとなりました。

グローバルフェスタJAPAN2013

10月5日～6日 於：東京・日比谷公園

「国際協力の日」に合わせて開催されるグローバルフェスタが、今年も行われました。今回のテーマは『見つけよう！世界とつながるあなたのトピラ』。残念なことに1日目が雨、2日目も曇りがちな空で例年よりはかなり客足が鈍った印象でしたが、それでも約7万8千人の来場者があったそうです。

これまでのカンボジア一色から、ラオス、ミャンマー色も合わせ少しカラフルになったフレンズJAPANブース。ボランティアさんと一緒に、悪天候に負けず、活動をアピールしました。

よこはま国際フェスタ2013

10月19日～20日 於：神奈川・象の鼻パーク

よこはま国際フェスタに参加しました。今年は、1日目が曇天かつ強風、2日目は雨で中止と天候に恵まれず、来場者は約1万5千人と発表されました。

たとえお天気が悪くとも、子どもたちは元気はつらつです。このフェスタの目玉のひとつは、子どもたちがボランティア体験をすること。フレンズJAPANのブースでも、小学生が大きな声を出して、当ブースへの勧誘を手伝ってくれました。

松戸市市民公開講座

10月20日 於：千葉・松戸市衛生会館

松戸歯科医師会主催の市民公開講座に赤尾和美が講師として招かれ、講演を行いました。赤尾の地元である松戸での開催とあって、雨天の中、100名にもおよぶ参加者があり、たいへんな盛況ぶりでした。

Act Against AIDS 2013 ロマンチック東北！inヒロサキ

11月30日 於：青森・市民文化交流館ホール

Act Against AIDSは、1993年から続いている音楽業界を中心としたエイズ啓発運動で、「AAAコンサート」とも呼ばれ、毎年、世界エイズデーに合わせ日本各地で開催されているイベントです。

フレンズJAPANは、昨年初めて八戸での同イベントに参加。今年は場所を弘前に移しての開催で、昨年同様、赤尾和美がトークゲストとして出演しました。

青森出身のボーカルデュオ・サエラさん、爆風スランプのサンブラザ中野くんさん、パッパラー河合さん、千葉「団長」孝さんのロマンティックなコンサートで盛り上がった後は、赤尾を交え、エイズをテーマにしたトークタイム。観客のみなさんと一緒に、あらためてエイズについて考える場となりました。



国際ソロプチミスト厚木

アンコール小児病院開院当初から現在に至るまで、長きに渡ってフレンズJAPANの活動を見守り、ご支援を続けてくださっているのが、国際ソロプチミスト厚木様（以下、厚木クラブ）です。

管理職や専門職に就いている女性で構成される国際ソロプチミストは、世界123カ国、約9万人の会員からなる世界的組織で、1921年にアメリカで設立されて以来、人権と女性の地位を高める奉仕活動を続けてこられました。厚木クラブ様は、1970年の設立。様々な奉仕活動や講演会、顕彰事業などを積極的に行っていらっしゃいます。

フレンズJAPANとのご縁は、写真家の故・藤井秀樹氏と奥様がきっかけでした。団体設立間もない頃より応援して下さっていた奥様が厚木クラブ様の会員だったことから、クラブにフレンズの活動を紹介して下さったのです。

支援の決め手となったのは、クラブ会員の皆さまが、フレンズの創設者・井津建郎の熱い思いと行動力に心を動かされたから、とのこと。フレンズJAPANにとって、強力なサポーターとなってくださいました。

また、女性ならではの目線で活動される団体の特性もあり、フレンズJAPAN副代表で看護師の赤尾和美に対しては、いつも心をくだき、応援していただいています。光栄なことに、2011年には、赤尾が厚木クラブ様の“クラブ賞”を賜りました。

アンコール小児病院の自立を祝福し、ラオスでの新プロジェクトにもエールを送ってくださっておりますので、これからもきっと、おつきあいが続いていくことでしょう。ぜひ、そうあってほしいと願っています。



国際ソロプチミスト厚木のメンバーの皆さま

アジアの子どもたちを支援する
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
に皆さまのご協力をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員 : 年会費 1 口 6,000 円
- 学生賛助会員 : 年会費 1 口 3,000 円
- 一般寄付 : 金額・回数はご自由です

支援者には年2回発行のニュースレターをお送りするほか、報告会やイベントの案内などをお届けします。

- 正会員 : 年会費 1 口 12,000 円
団体・法人 30,000 円

正会員には、ニュースレターや報告会・イベントの案内などをお送りするほか、年1回の定時総会において、団体の意思決定について参加していただけます（委任状の提出も可能です）。

※当法人が定める入会申込書を別途ご提出ください。

ご寄付を希望される方には、専用の郵便口座の振込用紙をお送りしております。ホームページのフォーム、もしくはお電話でご請求ください。郵便局や銀行に備え付けの用紙を使っていただいてもかまいません。

● 郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

振替番号：00160-0-546217

● 銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店

口座番号：普通預金 0420041

口座名：トクヒ）フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー
ジャパン

● クレジット決済

ご自宅からインターネットを通じ、クレジットカードでご寄付ができます。フレンズJAPANのホームページ www.fwab.jp にアクセスし、手順に沿ってお手続きください。

※ご寄付には寄付金控除の可能な領収証を発行いたします。

※銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より郵便振替で直接送金される場合、お手数ですが必ず、お名前、郵便番号、ご住所をお知らせください。

※アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を事務局までお知らせください。（振込用紙使用の場合はカンボジア寄付とご記入ください）

※アンコール小児病院に設置するネームプレートは、2012年のご寄付をもって終了いたしました。

活動国クイズにチャレンジ

これまでのフレンズの主な活動国はカンボジアでしたが、アンコール小児病院自立後、ラオスやミャンマーでも活動を行うようになりました。「これらの国をもっと知ってほしい!」ということで、グローバルフェスタやよこはま国際フェスタのフレンズブースでは“ラオス・カンボジア・ミャンマー基本情報クイズ”を実施。多くの方にチャレンジしていただきました。が……これが実は、かなりの難問だったようです。

たとえば、東南アジアの地図を見て、国の場所や首都を選ぶ問題。各国の「こんにちは」の言葉、通貨、国旗を候補の中から選ぶ問題。写真を見てどこの国の風景かを選ぶ問題など、計10問。ブース内の展示物にはヒント(というか答えそのもの)があるのですが、それでも皆

さん、悩む!悩む!!全問正解者は、数えるほどしかいらっしゃいませんでした。知っているようで正確には知らない、ということなのかもしれませんね。



当団体が活動を実施している主な国は、3か国。
ラオス、カンボジア、そして
ミャンマーはどこにある?



2013年は、フレンズJAPANにとってターニングポイントとなった年でした。新しく始まったプロジェクトでは、やらねばならないことが山のようにあります。赤尾は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、日本を駆け回り、移動スケジュールがかなりタイトな時は、自分が今どこにいるのか混乱する有様。電話やメールの言語がおかしなことになっていました。スタッフも急きょ、ラオスに飛んだり、ミャンマーに飛んだり。予定されていない海外出張が突然決まることに慣れた年と言えるかもしれません。

2014年も、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局より


FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

認定NPO法人
フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-5-203
Tel / Fax : 03-6421-7903
friends@fwab.jp

Friends Without A Border
1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA
Tel : 212-691-0909
Fax : 212-337-8052

Angkor Hospital for Children
PO Box 50, Siem Reap, Cambodia
Tel : 063-963-409
Fax : 063-760-452